

# 街路樹

## 学力向上に向けて ⑥

### 【観点別評価と評定の総括の方法】

今回は、既刊第11号で触れました分割点について述べます。

◎ 分割点(カッティングポイント C.P.)とは、観点別評価を行うとき、A,B,Cのいずれであるかを判断する区切りのこと、あるいは、評定を行うとき、1,2,3(小)、1,2,3,4,5(中)のいずれであるかを判断する区切りのことです。この分割点は、達成規準をもとに数値化して評価する際にあらかじめ明白しておく必要があります。そこで、以下に示す配慮事項を参考に妥当と考えられる分割点を設定して欲しいと思います。

### <分割点設定上の配慮事項>

- ◎ C.P.は指導後ではなく、指導前に設定しておく必要があります。
- (1) 基礎的・基本的で、その後の学習への関連性の強い目標では基準を高めてC.Pを設定したり、学習が困難な発展的な目標や問題では、基準を低くしたりする。
- (2) 解答が困難な目標や問題では基準点を低めにしてC.Pを設定したり、解答が容易な目標や問題では高めにしたりする。
- (3) 比較的複雑高度な理解や技能、思考・判断、表現等の観点は基準を低めにしてC.Pを設定したり、知識・理解や技能の観点は高めにしたりする。
- (4) 形成的評価(例1)や単元末の総括的評価ではC.P.の基準を高めに、学期末や学年末の総括的評価(例2)では低めに設定する。

### (例1)形成的評価における標準的な分割点

到達の区分	基礎的目標	
	最低必要の基礎	その他の基礎
到達している	0.85~0.90以上	0.80~0.85以上
到達していない	0.85~0.90未満	0.80~0.85未満

### (例2)期末・学年末総括的評価における標準的な分割点

到達の区分	基礎的目標	発展的目標
到達している	0.75~0.85以上	0.70~0.75以上
おおむね到達	0.75~0.65以上	0.50~0.55以上
到達していない	0.55~0.65未満	0.50~0.65未満

### <分割点の信頼性について>

分割点が学級、学校ごとにまちまちだと評価の信頼性が揺らぐこととなります。そのため、校内の共通性と共に学力調査結果を利用して分割点の目安を検討し、学校間の共通性を図ることも考えられます。

## 授業の改善 ⑦

= “教える” “叱る”ではなく、“育てる” こと =

子どもとコミュニケーションを深めるには、子どもと同じ目の高さにかがんで話をする事です。同じ心の高さで話をする時に、お互いが平等さを感じるのです。教えることを“叱る”ことと錯覚している大人が多いようですが、それは、子どもと同じ心の高さではありません。教える=叱るではなく、育てることが大切です。そのためには、心の高さを同じにして叱る場合は“三つ誓めて一つ叱る”育て方をすることです。昔の諺に「水を呑みたくない馬を川岸に連れていっても、水を呑ませることはできない」という言葉があります。子どもが自分から勉強しようと思わなかったら、いくら親や教師が一生懸命になって教えたり叱ったりしても、身に付きません。ですから、教育とは“教える” “叱る”ではなく、“育てる”ことなのです。子どもを教育しようと思ったら、まず、子どもが進んで勉強するように導いてやることなのです。

よく、小学校時代に勉強ができていたのに、中学、高校と進むにつれて、学力がどんどん落ちていく子どもがいます。これは、自分から勉強しようとしてやっていなかったからです。反対に、小学校の時は成績がよくなかったのに、中学、高校と進むにつれて、どんどん成績がよくなる子どもがいます。これは、自分から勉強しようと思ってやり始めたからです。勉強とは、最終的には、自分でやろうと思つてやる以外に、好きになることはできません。一端やる気になり、勉強に弾みがついてくると、勉強が好きになり面白くなります。子どもが勉強をやる気になり、好きになるには、周りにいる親や教師が、“教える” “叱る”ではなく“励まし育てる”ことなのです。

元NHKアナウンサー鈴木健二 著

「ふれあう心の一日一訓」より抜粋

### ～お知らせ～

「指導技術」は今回はお休みいたします。

## 研修の感想紹介

### 国際理解講座

- 直接ALTの方々と接することができ、とても楽しかった。(小・W)
- ALTによる自分の国の紹介の仕方がとても勉強になった。聞いている側を飽かさず、楽しく集中させる工夫があるので感心した。(小・W)
- 伝統工芸品を持ってきて、ALTに英語で話してみた。とてもドキドキ。子どもの気持ちになれたのがよかった。(小・W)
- いろいろな国の紹介、ALTの人柄がよくわかる時間だった。(小・W)
- 7カ国の外国の先生が並んだだけで、国際化に向けいわき市で取り組んでいる姿勢を感じ圧倒されました。(小・W)

### 新任教頭研修

- 管理職として、先生方が“やってみよう”という気持ち、意欲をもってもらえるよう、日々自分を磨いていきたいと思います。(小・M)
- 「指導」の本当の意味と厳しさを教えていただき、身がひきしまる思いがした。(小・W)
- 今日の研修は、とてもやる気が出る研修でした。また、自分の未熟さを自覚した時間でした。(小・M)
- 生徒のため、先生方のために役にたちたいという思いでスタートしたはずなのに、目の前の仕事をただこなすだけになっている自分に気づきました。信念をもち前向きに誠実に努める自分を目指していきたい。(中・M)
- 「できることからベストをつくす」「人との関わりは己を知り、人を育てること」「安全に完全はない」等、常に念頭に入れ、取り組みたいと思えます。(中・M)